

〔その他〕

ESDに位置付けたキャリア教育としての 特別活動と連携した道徳の授業開発 —東日本大震災直後の福島へのエネルギー資源輸送の絵本を資料として—

野澤敬之*

ESD Based Development of Moral Education through Special Activities as Career Education: Using a Picture book about Energy Resource Transportation to Fukushima Directory after the Great East Japan Earthquake Takayuki NOZAWA

1. はじめに

本稿の目的は、ESDに位置付けたキャリア教育としての特別活動と連携した道徳の授業を、東日本大震災直後における福島へのエネルギー資源輸送の絵本を資料に用いて開発することである。なぜならば、第1にESDに位置付けた実践が少ないこと、第2に、特別活動と連携した道徳実践が少ないこと、第3に、震災直後の福島へのエネルギー資源供給の話が道徳の資料と成りうるものの、利用されていないという課題を抱えているからである。

上記の課題解決のため、以下の5点を明らかにす。第1に、小学校教育におけるキャリア教育、第2に、ESDとキャリア教育の関係、第3に、キャリア教育における特別活動と道徳の連携、第4に、震災直後の福島へのエネルギー資源輸送を内容とする絵本を資料とする意味、第5に、これらを踏まえた道徳の授業計画を指導略案として示す。

第1の、小学校教育におけるキャリア教育については、キャリアの定義を行った後に、発達段階に応じて、勤労観や職業観の育成といった「直接的なキャリア支援」のみならず、「間接的な支援」も実施する必要があること、キャリア教育の要として特別活動中の学級活動を中心としながらも、各教科や他領域と関連付けた指導も必要であることを示す。第2の、ESDとキャリア教育の関係では、小学校においてESDが、学習指導要領全体の基盤として組み込まれている理念であり、学校教育全体で充実を図ることが求められていること、ESDの目標に関連付けたキャリア教育の実施が求められること、キャリア教育の目標達成のために、内容や方法を検討して授業開発することは、ESDの目標達成に向けた授業開発と成りうることを示す。第3の、キャリア教育における特別活動と道徳の連携では、特別活動の体験的活動等は、道徳的な実践の指導を行う重要な機会と場であり、特別活動でねらいとする内容や目指す資質・能力は、道徳科においても重要であること、キャリア教育で育む「基礎的・汎用的能力」は、道徳の内容のすべてと関連するものの、道徳科の授業でキャリア教育を行う際は、道徳教育の意図を持つことが重要であることを示す。第4の、震災直後の福島へのエネルギー資源輸送を内容とする絵本を取り上げる意味は、絵本の内容が道徳の内容項目「勤労、公共の精神」の読み物資料として適切であると判断したからであり、キャリア教育として望ましい勤労観・職業観の育成につながることを示す。第5の、道徳の授業計画を指導略案とすることについては、福島

* 弘前大学大学院地域社会研究科 客員研究員

県で行われた小学校での職場体験を参考に、特別活動と関連付けながら、道徳の授業の目標等を略案として示す。

2. 小学校教育におけるキャリア教育

2.1 キャリア教育の定義

キャリア教育を、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育と定義する。ここでの「キャリア」とは、人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分との役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねを示す。また、「キャリア発達」とは、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を示す。このように定義した理由は、第1に「キャリア」という言葉自体、多様に用いられてきたため、1つに決める必要がある。第2に、「キャリア教育」の定義も複数存在するため、1つに定める必要があり、本稿においては、中央教育審議会答申での定義を採用するからである。

第1の「キャリア」という言葉自体、多様に用いられてきたため、1つに決める必要があることについては、以下の通りである。「キャリア」という言葉は、職歴という意味以外にも「携帯キャリア」のように、電話会社を指すなど、多様な意味を持っているため、1つに定める必要がある。

第2の「キャリア教育」の定義も複数存在するため、1つに定める必要があり、本稿において、中央教育審議会答申での定義を採用することについては、以下の通りである。キャリア教育の発祥の地とされるアメリカ合衆国では、複数の定義が存在する。キャリア教育を考える先生・保護者のためのwebサイトであるキャリア教育ラボ(2021)によれば日本では1999年に、「職業観と勤労観を養い、職業に関する知識と技能を身につけること」そして「自分の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」として始まったとしている。しかし現在は、職業観・勤労観のみならず、「生き方」を考えさせる方向に進んでいるため、定義を明確に示さなければならない。本稿においては、後述するように、教育課程内の特別活動と連携した道徳の授業を開発することから、文部科学省が示した定義を採用する。この定義は、平成23年1月の中央教育審議会(2011)で示されたものであり、以下のように定義されている。一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育とする。ここで上述した通り、「キャリア」の意味を限定する必要があるため、「キャリア」および「キャリア発達」の意味について、中央教育審議会答申で示されたものを加えた。

以上のことから、キャリア教育の定義を、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育とする。ここでの「キャリア」とは、人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分との役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねを示す。また、「キャリア発達」とは、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を示す、とした。

2.2 小学校教育におけるキャリア教育

小学校教育におけるキャリア教育は、第1に、特別活動を要としながら、学校教育全体で進めていく必要がある。第2に、発達段階に応じて「直接的なキャリア支援」のみならず、「間接的な支援」も実施する必要がある。

第1の、特別活動を要としながら、学校教育全体で進めていく必要があることについては、以下の通りである。文部科学省WEBサイトの「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～の骨子」(2004)には、キャリア教育を、「端的には『児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育』」、「『キャリア』概念に基づき、『児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育』」としている。この「勤労観、職業観を育てる教育」を諸富祥彦(2007a)は、「直接的なキャリア支援」であるといい、これは、小学校5年生ぐらいからでよく、と

りわけ低学年の児童には、キャリアを形成するのに必要な意欲、態度、心構え等の広範な領域に及ぶ「間接的なキャリア支援」が、重要であるという。その後この指摘の通りに、キャリア教育は、第2章1節で述べたような「間接的なキャリア支援」も含む定義へと変化した。これにより、従来から特別活動で行われてきた進路指導、換言すれば「直接的なキャリア支援」の他に、「間接的なキャリア支援」の実践が不可欠となった。例えば、自己肯定感を高めようとするれば、道徳の授業等との連携が必要であり、言葉によるコミュニケーション能力を高めるためには、国語や英語の授業との連携が必要である。このように、「直接的なキャリア支援」は特別活動、「間接的なキャリア支援」は教科等での取り組みが必要になることから、学校全体での取り組みが不可欠であると言える。このことは、文部科学省（2018a）『平成29年告示小学校学習指導要領解説特別活動編』（以降、現行小学校解説特活編）において、「一人一人のキャリア形成と自己実現」の内容に、「特別活動を要として、学校の教育活動全体を通してキャリア教育の充実を図ること」と示された。以上のことから、特別活動を要としながら、学校教育全体で進めていく必要があると言える。

第2の、発達段階に応じて直接的なキャリア支援のみならず、「間接的な支援」も実施する必要があることについては、以下の通りである。諸富（2007b）は、「キャリア教育の導入に際して強調されているのは、「発達段階」であり、小学校では基礎的な能力育成が、中学・高校では直接的なキャリア形成能力を育成が、キャリア教育の柱になるという。また、前出の中央教育審議会答申では、キャリアは子ども・若者の発達段階や発達課題と深くかかわりながら段階を追って発達していく。よって、学校教育においては、社会人・職業人として自立していくために必要な基盤となる能力や態度を育成することを通じて、一人一人の発達を促していくことが必要であるとしている。このように、一人一人のキャリア発達を促すには、発達段階を考慮した上で、直接的・間接的なキャリア形成能力を育成する必要がある。これについて、文部科学省（2011a）は、特に小学校におけるキャリア教育は、低・中・高学年と成長が著しいため、児童一人一人の発達に応じて、丁寧に設定していくことが大切である。また、小学校段階では、日常的な様々な「役割」遂行の経験を積み重ねながら、計画的・系統的に「自己の生き方」について考えることができるようにすることが望まれるとしている。ここでは、日常の経験や「自己の生き方」に関する思考といった、「間接的なキャリア支援」の必要性も読み取れる。以上のことから、発達段階に応じて直接的なキャリア支援のみならず、「間接的な支援」も実施する必要があると言える。

2.3 キャリア教育における特別活動

キャリア教育における特別活動は、キャリア教育の要として、「基礎的・汎用的能力」、具体的には、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を、学級活動の1つの内容である「一人一人のキャリア形成と自己実現」を中心に育む場である。しかし、キャリア教育には「間接的なキャリア支援」も含まれていることから、特別活動以外の各教科や他領域と関連付けた指導をすることで「基礎的・汎用的能力」を育むことができる。詳細は、以下の通りである。

表1 基礎的汎用的能力とは何か（文部科学省を基に著者作成）

基礎的汎用的能力	説明	具体例
人間関係形成・社会形成能力	多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。	コミュニケーション・スキル チームワーク その他

自己理解・自己管理能力	自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。	自己の役割の理解 主体的行動 その他
課題対応能力	仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。	情報の理解・選択・処理 計画立案 その他
キャリアプランニング能力	「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。	多様性の理解 将来設計 その他

文部科学省（2018b）は、現行小学校解説特活編の「改定の基本的な方向性」において、「教育活動全体の中で『基礎的・汎用的能力』を育むというキャリア教育本来の役割を改めて明確にする」として。ここでの「基礎的・汎用的能力」は、文部科学省（2011b）によれば、「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」の4つで構成されるという。詳細は、表1に示した。これらを育む具体的な場として文部科学省（2018a）は、学級活動の内容である「一人一人のキャリア形成と自己実現」を挙げている。これは、更に「現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」「社会参画意識の醸成と働くことの意義の理解」「主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用」に分かれており、これらの指導は、各教科等の学習と関連して指導する等、指導の具体性等が望まれるとしている。ここで、示された内容は、直接的なキャリア支援のみならず、「主体的な学習態度の形成」等の「間接的なキャリア支援」も含まれていることから、特別活動以外の各教科や他領域と関連付けた指導をすることで「基礎的・汎用的能力」を育むことができると言える。

3. ESDとキャリア教育の関係

3.1 小学校におけるESD

ESDは、第1に、学習指導要領全体の基盤として組み込まれている理念である。第2に、各教科や他領域のみならず、学校教育全体でESDに関する目標を設定して教育活動の充実を図ることが求められている。詳細は、以下の通りである。

第1の、学習指導要領全体の基盤として組み込まれている理念であることについては、以下の通りである。平成28年12月中央教育審議会（2016）は、「ESDは、次期学習指導要領改訂の全体において基盤となる理念である」としている。これに基づき改訂された文部科学省（2018c）『平成29年告示小学校学習指導要領』では前文において、児童が、持続可能な社会の担い手となれるように求められており、必要な教育の在り方を具体化し、各学校において教育の内容等を組み立てたのが教育課程であるとしている。ここで、学習指導要領が教育課程の基準であることからすれば、持続可能な社会の担い手を育成する教育が、学習指導要領全体の基盤を成す「根本的な考え方」として組み入れられたことになる。換言すれば、ESDが学習指導要領全体の基盤として組み込まれている理念であると言える。

第2の、各教科や他領域のみならず、学校教育全体でESDに関する目標を設定して教育活動の充実を図ることが求められていることについては、以下の通りである。国立教育政策研究所（2012a）は、持続可能な社会づくりに関する課題には、多くの要素が絡み合っているものが多いことから、

ESDではこうした課題に対し、多面的、総合的に取り組みながら学習を展開していくことが求められる。そのため、学校においてESDを推進するには、特定の教科等を設けるのではなく、既存の教科等に組み込む等、教育活動全体を通して展開することが大切であるとしている。この、ESDに関する目標や内容を各教科等へ組み入れること、教育活動全体で展開することは、後に出された文部科学省（2018d）『平成29年告示小学校学習指導要領解説総則編』において、持続可能な社会の創り手となることが期待される児童に、生きる力を育むことを目指すに当たっては、学校教育全体並びに各教科、特別活動等の他領域の指導を通して、どのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にし、教育活動の充実を図るとしている。ここでの、「どのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にする」は、「目標を明確に設定する」ことであるから、各教科や他領域のみならず、学校教育全体でESDに関する目標を設定して教育活動の充実を図ることが求められていると言える。

3.2 小学校におけるESDとキャリア教育の関係

小学校におけるESDとキャリア教育の関係は、学校教育全体で進めていくキャリア教育は、学習指導要領全体の基盤として組み込まれたESDに内包されるため、ESDの目標に位置付けたキャリア教育の実施が求められる。詳細は、以下の通りである。

キャリア教育もESDも、学校全体で取り組むべき教育であるという点では、同じである。また、1つの教科のみならず、特別活動や総合的な学習の時間等の他領域との関連を図り、「教科横断的な学び」が行われるのも、同様である。さらに教育課程内のみならず、部活動や課外学習の内容によっては、教育課程外とも関連する。こうした「教科横断的な学び」は、両者に限ったことではなく、例えば「人権教育」「国際理解教育」「食育」等も、同様である。しかし、第3章1節で述べたように、ESDは学習指導要領全体の基盤として組み込まれている理念であるから、教育課程内外の学校全体で行われるキャリア教育を内包するのがESDである。このESDとキャリア教育の関係を示したのが図1である。このESDは、「持続可能な社会の担い手の育成」が目標であるから、ESDの目標に位置付けたキャリア教育の実施が求められる。

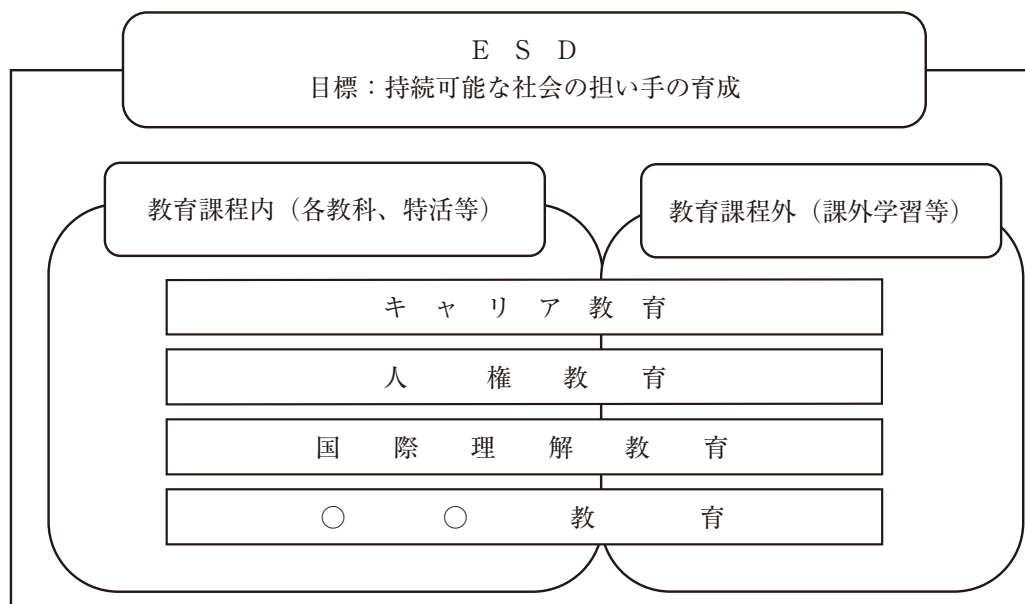


図1 小学校におけるESDとキャリア教育の関係（著者作成）

以上のことから、学校教育全体で進めていくキャリア教育は、学習指導要領全体の基盤として組み込まれたESDに内包されるため、ESDの目標に位置付けたキャリア教育の実施が求められる。

3.3 ESDにおけるキャリア教育の位置づけ

ESDの視点に立った学習指導の目標を設定した場合、ESDとキャリア教育の共通する目標等が多く見いだされることから、キャリア教育の目標達成のために、内容や方法を検討して授業開発することは、ESDの目標達成に向けた授業開発と成りうる。詳細は、以下の通りである。

国立教育政策研究所（2012b）によれば、「持続可能な社会づくりに関わる課題を見いだし、それらを解決するために必要な能力や態度を身に付ける」というESDの視点に立った学習指導の目標を設定した場合、「持続可能な社会づくりの構成概念」として、多様性、相互性、有限性、公平性、連携性、責任性を、「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」として、批判的に考える力、未来像を予測して計画を立てる力、多面的、総合的に考える力、コミュニケーションを行う力、他者と協力する態度、つながりを尊重する態度、進んで参加する態度を例示した。一方、キャリア教育は、第2章3節で述べたように、教育活動全体の中で「基礎的・汎用的能力」を育むものである。さらにこの「基礎的・汎用的能力」は、コミュニケーション・スキルやチームワーク等の「人間関係形成・社会形成能力」、自己の役割理解、主体的行動等の「自己理解・自己管理能力」、情報の理解・選択・処理、計画立案等の「課題対応能力」、多様性の理解、将来設計等の「キャリアプランニング能力」の4つで構成される。この「基礎的・汎用的能力」の例示を、ESD視点に立った学習目標の「構成概念」や「能力・態度」と比較し、共通のものをまとめると、表2のようになる。ここから、ESDの学習目標とキャリア教育の「基礎的・汎用的能力」に多くの共通点が見られる。共通する授業の目標を設定することで、両者の目標達成に向けられることになる。

表2 ESD目標の構成概念や能力・態度とキャリア教育の基礎的汎用的能力の共通性（著者作成）

ESDの目標に関する項目 (構成概念や能力・態度)	キャリア教育に関する項目 (基礎的・汎用的能力)
コミュニケーションを行う力	コミュニケーション・スキル (人間関係形成・社会形成能力)
相互性 連帯性	チームワーク (人間関係形成・社会形成能力)
責任制	自己の役割理解 (自己理解・自己管理能力)
進んで参加する態度	主体的行動 (自己理解・自己管理能力)
未来像を予測して計画を立てる力	情報の理解・選択・処理 (課題対応能力) 計画立案 (課題対応能力) 将来設計 (キャリアプランニング能力)
多様性	多様性の理解 (キャリアプランニング能力)

以上のことから、ESDの視点に立った学習指導の目標を設定した場合、ESDとキャリア教育の共通する目標等が多く見いだされることから、キャリア教育の目標達成のために、内容や方法を検討して授業開発することは、ESDの目標達成に向けた授業開発と成りうると言える。

4. キャリア教育における道徳科と特別活動の連携

4.1 道徳科と特別活動の連携

道徳科と特別活動を連携させる意味は、第1に、特別活動の体験的活動等は、道徳的な実践の指導を行う重要な機会と場である。第2に、特別活動でねらいとする内容や目指す資質・能力は、道徳教育におけるねらい等と共通部分が多いことから、道徳科において果たすべき役割は極めて大きい。詳細は、以下の通りである。

文部科学省（2018e）『平成29年告示小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編』（以降、現行小学校解説道徳編）によれば、特別活動における体験的な活動等は、道徳教育において果たす役割は大き

い。さらに、特別活動でねらいとする内容や目指す資質・能力には、道徳教育がねらいとする内容と共通している面が多く、道徳教育において果たすべき役割は極めて大きいという。また、具体例として、自己の役割や責任を果たして生活しようとする態度、よりよい人間関係を形成しようとする態度等を挙げ、これらは集団活動を通して身に付けたい道徳性であるとしている。ここで、道徳科は道徳教育の要であり、双方とも「道徳性の育成」を目指すことから、「道徳教育」を「道徳科」と読み替えることができる。よって、道徳科において、特別活動の体験的活動等は、道徳的な実践の指導を行う重要な機会と場であり、特別活動でねらいとする内容や目指す資質・能力は、道徳教育におけるねらい等と共通部分が多いことから、道徳科において果たすべき役割は極めて大きい。このことから、両者を連携させる意味があると言える。

4.2 道徳科におけるキャリア教育

キャリア教育で育む「基礎的・汎用的能力」は、「直接的なキャリア支援」のみならず、「間接的な支援」の内容も含めれば、道徳の内容のすべてと関連する。しかし、キャリア教育を行うことが道徳教育を行うことと同じにはならないため、道徳科の授業でキャリア教育を行う際は、道徳教育の意図を持つことが重要である。詳細は、以下の通りである。

キャリア教育の要として、「基礎的・汎用的能力」、具体的には、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つの育成があることは、第2章3節で示した。この4つの能力と道徳の内容で直接的に関わるもの、換言すれば「直接的な支援」の内容、及び「間接的な支援」の内容として、赤堀（2014a）は、次のものを挙げている。なお、本稿においては後述するように小学校6年生の授業開発を行ったため、小学校5-6年生のみを示した。また、学習指導要領が当時のものと違い改訂されているため、現行の項目に読み替えている。「望ましい勤労観・職業観」、勤労・公共の精神、「人間関係形成・社会形成能力」、思いやり・感謝、相互理解・寛容、その他、「自己理解・自己管理能力」、自主・自立・自由と責任、希望と勇気、克己と強い意志、その他、「課題対応能力」、真理の探究・創造、その他、「キャリアプランニング能力」、自主・自立・自由と責任、その他としている。ここから、「基礎的・汎用的能力」が道徳の内容項目を全体的に含んでいることが分かる。その一方で赤堀は、キャリア教育を行えば道徳教育を行ったことにはならず、道徳の内容を意識し、道徳教育を行うという意図を持つことの重要性を指摘している。授業づくりを考えた際に不可欠なのは、目標・内容・方法であるから、ここでの、「道徳教育の意図」には、道徳の授業として目標・内容・方法を明確に示すことを含むと考えられる。

5. 絵本を道徳の資料として取り上げる意味

震災直後のエネルギー資源輸送を道徳授業の資料として扱うのは、第1に、これを扱った絵本、すとう・鈴木（2013）『はしれディーゼルきかんしゃデーデ』（以降、絵本）の内容が道徳の読み物資料として適切であると判断したからである。第2に、キャリア教育として望ましい勤労観・職業観の育成につながるからである。詳細は、以下の通りである。

第1の、絵本の内容が道徳の読み物資料として適切であると判断したことについては、以下の通りである。震災後の環境やエネルギー等に関する教育に、自然災害や防災を扱ったもの、原子力発電事故や放射能汚染を扱ったもの、被災した人々に対する思いやりを育てる道徳教育等がある。一方、震災後すぐに多くの人々の使命感や責任感や努力に支えられ、エネルギー資源が被災地福島に継続的に輸送されたという事実もあり、動画投稿サイトYoutube（2021）「磐越西線 迂9292レ 救援DE10到着」等として高い視聴回数を誇るも、原発事故等よりも知られていない。この出来事に道徳における内容項目の「勤労、公共の精神」が含まれており、この内容が絵本に反映されている。この「勤労、公共の精神」を価値項目として授業計画することは、道徳の授業計画を行うことであり、その際に利用される読み物資料として適切であると判断した。なお、絵本でのエネルギー資源は「ねんりょう」と平仮名表記であるものの、本稿においては、漢字で表記とした。

第2の、キャリア教育として望ましい勤労観・職業観の育成につながることは、以下の通りである。赤堀（2014b）は、勤労観・職業観の育成は、中学校、高等学校だけの課題ではなく、小学校でも勘案すべき問題であり、社会生活の中での自らの役割や、働くことへの理解等が、重要であるという。本開発授業においては、震災による道路・線路の寸断や電力供給の停止という困難の中、必死で自分たちの役割を果たし、被災地福島の人々へ燃料供給しようとする姿を読み取らせたい。これにより、自分の役割を果たし働くことが、社会に貢献することを理解させることを「めあて」とした。

以上のことから、震災直後のエネルギー資源輸送を授業の資料として扱うのは、絵本の内容が道徳の読み物資料として適切であると判断したから、キャリア教育として望ましい勤労観・職業観の育成につながるからである。

6. 学習指導略案

6.1 授業開発の背景

キャリア教育の要が特別活動であり、その特別活動と道徳の連携を示すため、特別活動における職場体験を想定して、単元を組み立てた。その際、道徳の授業に用いる資料が、福島へのエネルギー資源輸送であることから、福島県内における小学校の職場体験を調べた。エコハッチャンと仲間たちのWEBサイト（2021）には福島大学教育学部附属小学校、新地町図書館のWEBサイト（2021）には福田小学校の、いずれも6年生の児童が数時間の体験していたことが書かれてある。ここから、本稿における開発授業の対象を小学校6年生とした。また、職場体験の時間を3時間、事前事後指導の時間ならびに、連携する道徳の授業を組み入れて、単元を構成したのが、表3である。また、主題名や「ねらい」等を示したが表4、本時の展開計画を示したのが表5、板書計画を示したのが図2である。なお、本稿における「本時の展開計画」は、拙著（2019）で示した中学生用の授業を、小学生用にアレンジしたものである。資料分析表等は、そちらを参照されたい。

6.2 ねらい・展開計画等

(1) 単元の計画

単元の計画は、以下の通りである。

表3 単元の計画（著者作成）

教科等	事前・当日・事後	配当時間	内容の項目
特活	事前	9	・オリエンテーション ・自己理解 ・職業講和 ・マナー・安全指導 ・職場の事前調査
道徳（本時）	事前	1	・勤労、公共の精神 [14]
特活	体験本番	3	・各職場による体験
特活	事後	6	・お礼状書き ・まとめ ・発表

(2) 主題目。ねらい等

主題名やねらい等は、以下の通りである。

表4 主題名・ねらい等（著者作成）

主題名	困難な仕事でもあきらめない理由 [14 勤労、公共の精神]
ねらい	普段は気に留めない燃料の輸送・販売が、自分たちの生活や命を守るための仕事であることに気づき、一生懸命働くことがみんなの役に立つことを理解する。
対象	小学6年生

教材名	「はしれディーゼルきかんしゃデーデ」(童心社)
キャリア教育・ESDとしての意味	<p>第5章で述べた通り、小学校においても、キャリア教育としての勤労観・職業観の育成は重要である。使用する絵本の資料には、震災により燃料輸送が困難になる中、必死で自分たちの役割を果たし、被災地福島の人々へ燃料供給しようとする姿がある。ここから、自分の役割を果たし働くことが、社会に貢献することになるということを理解させることが、キャリア教育と結びつく。</p> <p>3章3節で述べた通り、「持続可能な社会づくりの構成概念」として、多様性、相互性、有限性、公平性、連携性、責任性が例示されている。この中で、震災により燃料輸送が困難になる中、必死で自分たちの役割を果たし、被災地福島の人々へ燃料供給し続けた姿は、「責任制」と結びつく。</p> <p>このように、本開発授業は、ESDやキャリア教育と結び付けられる。</p>
主題設定の理由	<p>東日本大震災から10年以上が経過し、児童は誕生前か、誕生していても乳児であり、災害時の記憶がない。普段は気に留めない、食品やその運搬を支えるガソリン等、および暖房器具に用いる灯油の物流は、この震災により、ほぼ停止することで、その大切さが再認識されたと思う。この物流が止まった大きな理由に、道路や線路の寸断がある。これが原因で、物流のみならず家屋倒壊により車中泊をする人々や、暖房器具使用のため、ガソリンや灯油が不足していた。この困難の中、福島への燃料輸送の実現に向けて努力する人々がいた。機関士やガソリンスタンド店員など、燃料の輸送・販売に関わる様々な仕事と、その人々の願いや思いを考えることで、「責任ある仕事」についての気づきや理解を深めさせたい。また、小田(2020)は、学校での震災経験の伝承が、児童・教員共に課題であるという。絵本の読み聞かせという間接体験は、風化防止としても役立つと考えている。</p>

(3) 本時の展開計画は、以下の通りである。

表5 本時の展開計画

段階	学 習 活 動		◇留意点 ◆評価
	○基本発問等	◎中心発問 ・児童の発表等	
導入	<p>○人の命を助けたり、救ったりする人を思い浮かべてみてください。どんな職業が思いつきますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防士 ・警察官 ・医者 ・レスキュー ・自衛隊(官) ・看護師 <p>○皆さんは、東日本大震災の大津波でたくさんの人々が犠牲になったことを知っていますね。実は、地震後に、写真のようなことが起こりました。どうして、このようなことが起こったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何かを買うための行列。 ・事故が起こったから、渋滞している。 ・ラーメンを食べるために並んでいる。 <p>○ガソリンを買うために並んでいるのです。ガソリンに限らず、何気なく使ったり食べたりする物は、様々な場所で作られスーパーマーケットや他のお店に運ばれてきています。大地震は、運ぶための鉄道や道路を壊してしまったのです。今日は、大地震直後に福島県へ燃料を運ぶというお話です。お話に登場する人たちが、どのような気持ちで仕事をしていたのかを想像しながら聞きましょう。</p>	<p>◇ワークシートを配布する。</p> <p>◇東日本大震災の大津波でたくさんの犠牲者がでたことを事前に学習しておく。</p> <p>◇震災直後に給油のため、長蛇の列を組む自動車の写真を提示する。</p>	

<p>○絵本『はしれディーゼルきかんしゃ デーデ』を読み聞かせる。</p> <p>○登場した人々の確認です。どんな人達が登場しましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機関士 ・ガソリンスタンドの人 ・お客さん ・機関車を整備する人 ・線路の整備をする人 ・機関車に手を振ったり、手を合わせたりする人 ・JR貨物の職員 <p>○登場してきた人々は、どんな願いで、どんな仕事をしましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機関士は、被災した福島の人々に早く燃料を届けたいと運転をした。 ・スタンドの人は、人々にガソリンを入れてあげた。 ・機関車を整備する人は、被災地に機関車が無事に着くよう故障がないか整備した。 ・線路を整備する人は、機関車がきちんと走るように点検・整備した。 ・JR貨物の職員は、被災地に燃料を届けるために他のディーゼル機関車を探した。 <p>◎登場してきた人々は、誰の何のために困難な仕事でも一生懸命したのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災地の人々が温かい生活をできるようにしたかった。 ・被災地の人々が燃料に困らず運転してほしかった。 ・被災地の人々が笑顔で生活できるようにしたかった。 <p>○今日の授業で気付いたことや新しく分かったことを、ワークシートにまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃料の輸送が難しい馬中で、普段と変わらずに燃料を届けようと努力する人々がいた。 ・私たちの生活は、自分の仕事に責任をもって行おうとする人々のお陰で成り立っている。 	<p>◇実物投影機を使って、絵本の絵を拡大する。</p> <p>◇それぞれの場面により、例えば機関誌やガソリンスタンドの店員など、中心人物が異なる。そのため、場面ごとに中心人物を確認しながら、読み進めたい。</p> <p>◇コンセプトマップを使い、それぞれの関係をまとめ、誰の何のために仕事をしていたのかを、気付かせる。</p> <p>◆普段は気に留めない燃料の輸送・販売が、自分たちの生活や命を守るための仕事であることに気づき、一生懸命働くことがみんなの役に立つことを理解できたか。</p>
<p>終末 ○授業を終えて、感じたことを発表しよう。</p>	

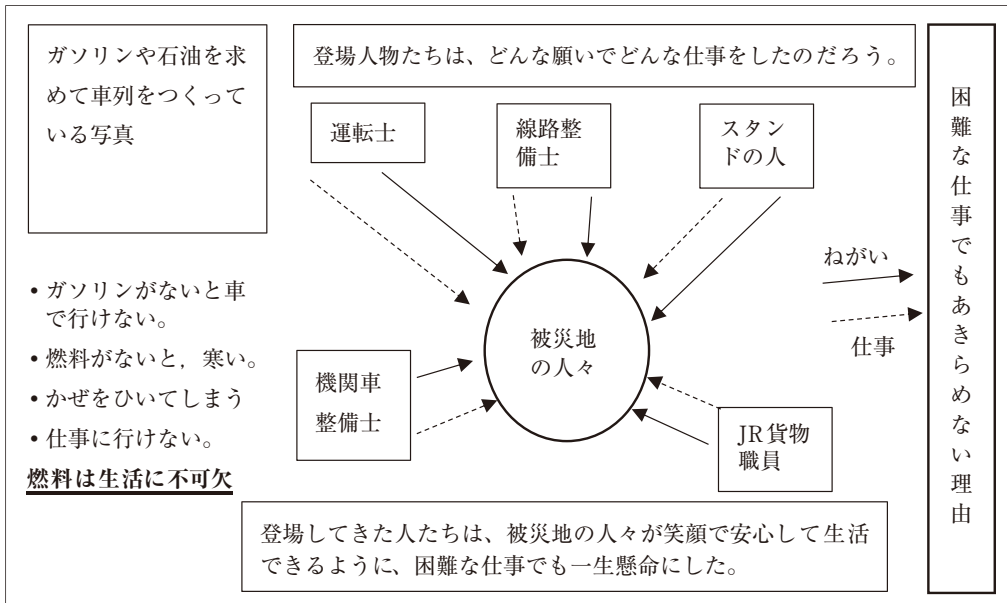


図2 板書計画 (著者作成)

7. おわりに

ESDに位置付けたキャリア教育としての特別活動を連携した道徳の授業を、東日本大震災直後ににおける福島へのエネルギー資源輸送の絵本を資料に用いて開発した。

成果は、第1に、ESDに位置付けた特別活動と連携した道徳の授業を開発したことである。ESDの考え方が、現行小学校解説道徳編から取り入れられたこともあり、道徳での取り組む実践が少ない中、道徳における授業案を提示できたことである。第2に、ESD・特別活動・道徳の授業を、「キャリア教育」に関わる目標を設定することで関連付けたことである。この2つの成果によって、学校教育におけるESDの更なる広がりが期待できる。第3の成果は、東日本大震災直後に復旧や復興に不可欠な化石燃料供給に向けて努力した人々の姿を内容に含んだ資料を、用いたことである。学校での震災経験の伝承が課題になっている中、絵本を資料とすることで、直接体験では無い上に、地震そのものを扱っていないものの、震災直後の間接体験の場としても期待できる。

課題は、例えばESDとキャリア教育の関連を考える際に、「持続可能な社会づくりの構成概念」として挙げられた1つの例示と、キャリア教育で育む「基礎的・汎用的能力」の1つの例示の共通点を示したに過ぎないことである。今後は、道徳と特別活動、道徳とキャリア教育、ESDとキャリア教育とを連携させた場合、重視すべき共通点を明確にしていきたい。

謝辞

本研究を行うにあたり、青森県おいらせ町立木内々小学校校長村山通徳先生より、授業の展開部分を中心に貴重な助言をいただきました。ここに衷心より感謝申し上げます。

引用・参考文献

- 赤堀博行 (2014a) 「道徳教育と様々な教育課題との連携 第10回 道徳教育とキャリア教育 II」、道徳と特別活動 心をはぐくむ第30巻10号、文溪堂、p.32-33.
- 赤堀博行 (2014b) 「道徳教育と様々な教育課題との連携 第10回 道徳教育とキャリア教育 II」、道徳と特別活動 心をはぐくむ第30巻10号、文溪堂、p.31.
- キャリア教育ラボ (2021) キャリア教育とは、<https://career-ed-lab.mynavi.jp/career-column/94/>、2021. 11. 29参照
- 中央教育審議会 (2011) 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について (答申)」、<https://www.mext.go.jp>afielddfile>、p.16. 2021. 11. 26参照
- 中央教育審議会 (2016) 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申)」、https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm、2021. 12. 7参照
- エコハッチャンと仲間たち (2021)、「【訪問学習】福島大学附属小学校6年生 職場体験」、<http://blog.iwate-eco.jp/2012/07/000530.html>、2021. 12. 22参照
- 国立教育政策研究所 (2012a) 「学校におけるESDに関する研究最終報告書」、p.3.
- 国立教育政策研究所 (2012b) 「学校におけるESDに関する研究最終報告書」、p.4.
- 文部科学省 (2004) 「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～の骨子」平成16年1月28日、https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/023/toushin/04012801.htm、2021. 12. 3参照
- 文部科学省 (2011a) 「小学校キャリア教育の手引き (改訂版)」、p.18.
- 文部科学省 (2011b) 「小学校キャリア教育の手引き (改訂版)」、pp.13-16.
- 文部科学省 (2018a) 「平成29年告示小学校学習指導要領解説特別活動編」、p.57-61.
- 文部科学省 (2018b) 「平成29年告示小学校学習指導要領解説特別活動編」、pp.6-7.
- 文部科学省 (2018c) 「平成29年告示小学校学習指導要領」、p.15-16.
- 文部科学省 (2018d) 「平成29年告示小学校学習指導要領解説総則編」、p.34.
- 文部科学省 (2018e) 「平成29年告示小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編」、pp.14-15.
- 諸富祥彦 (2007a) 「『7つの力』を育てるキャリア教育」、図書文化、pp.16-20.
- 諸富祥彦 (2007b) 「『7つの力』を育てるキャリア教育」、図書文化、pp.21-39.
- 野澤敬之 (2019) 「東日本大震災直後のエネルギー輸送を読み物資料に用いた道徳の授業開発—アクティブラーニングに内包される『視点の移動』を用いて—」、エネルギー環境教育研究第14巻1号 pp.27-34.
- 小田隆史 (2020) 「東日本大震災の伝承を通じた教職員の防災力向上—被災地と未災地との交流の意義—」、日本地理学会発表要旨集2020s (0)、p.97.

新地町図書館 (2021) 「福田小学校 6年生 職場体験 11月19日 (木曜日)」、<https://www.shinchi-town.jp/site/library/albumtaiken.html>、2021. 12. 22参照

すとう・鈴木 (2013) 『はしれディーゼルきかんしゃデーデ』、童心社

Youtube (2021) 「磐越西線 迂9292レ 救援DE10到着」、<https://www.youtube.com/watch?v=rNgs9t3QIcg&t=99s>、2021. 12. 22参照